



第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会

● 全体会報告 ●

11月8日と9日に開催された、第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会に参加しました。前年度が福井県開催であったため、西組協議会の皆様をはじめ、福井県からも多くの方々に参加されました。三重県は、自然や文化等の地域資源を生かし、自発的に地域をよりよくしていこうとする住民の皆さんの地域づくり活動を、行政や企業、大学、地域づくり関係者等が支援する「^{うま}美し国おこし・三重」に取り組んでいます。この取組みは平成21年度から続いているもので、最終年度である本年度は6年間の成果を集約・披露し、今後も元気な地域づくり活動を持続しようと、本大会の他に、「縁博みえ2014」や「三重県民大縁会」が開催され、県内外問わず様々な交流が行われます。全体会は「伊勢音頭」からスタートし、その後、三重県副知事や来賓の方々の挨拶があり、三重県内で活動するグループの事例紹介、パネルディスカッション等がありました。

印象に残ったのはNPO法人マザーズライフサポーターで、乳幼児を抱える母親向けの地域情報誌や、母親が育児を離れてホッと一息つける交流拠点「ニコママカフェ」の運営、ママたちの就業支援等、母親のための様々な支援活動をされています。きっかけは、代表である伊藤さん（結婚による1ターン）が鈴鹿市で住む際に直面した問題でした。知らない人ばかりで相談相手がいない、気兼ねなく乳幼児をつれていける場所がない、短時間だけ就業できる事業所がわからない…等々。ご自身の苦労もあり、子育てママの視点に立ち、細かく対応されていることはもちろん、自ら企業などを回り協賛金や就業先の情報を得ながら運営されていたことに感心させられました。本市も若者流出（特に女性）による未婚化・晩婚化が進んでいます。子育てしやすい環境にありながら働き口がないことが課題で



もあります。企業誘致など行政が果たすべき役割も大きいですが、このような女性の心に安心を与えられる民間の活動も併せて重要であると痛感しました。

● 紀北町分科会報告 ●

交流会に参加するにあたり、希望する分科会選びも必要です。三重大会の分科会は21分科会もあったため、どの分科会にしようかと思案しましたが、熊野古道や町並みを散策できる紀北町分科会への参加が決定しました。

さて、参加当日、紀北町担当者の方にお世話になり、全体会が開催された津市から高速で海山インターへ向かいました。

なお、これからご紹介する紀北町は、旧海山町と旧紀伊長島町が平成17年に合併してできた町です。隣の和歌山県とも近く、世界遺産となっている熊野古道も一部あります。海・山・川と豊かな自然に恵まれています。町では鶏肉に似た食感の“マンボウ”を使ったご当地グルメが名物でゆるきゃら「きーぼーくん」とも出会えます。



参加した分科会は10名と少人数だったため、その分全員と話すことができ、各自が実施されている活動も理解できました。私たちも含め、まちづくりに取り組んでいる方はお話し好きな方が多いこともあり、終始アットホームな雰囲気楽しく過ごせました。



1日目は、熊野古道の馬越峠側から登り、その後訪れた銚子川は水眼鏡で覗くと、川底まで鮮明に見えるほど非常に透明度が高く、それだけで感激していましたが、地元で伝わる*種まき権兵衛に扮した地元の方が船頭となり、船での川渡しまで体験させていただきました。その日は、夏場は予約が殺到してなかなか宿泊できない「キャンプinn海山」のコテージに宿泊し、



地元の海産物がふんだんのバーベキューを食しました。

2日目は、コテージから見える朝焼けがすがすがしく私達を目覚めさせてくれました。手作りの

朝食でお腹を満たした後、旧長島町に場所を移し、町並みが残る魚町を案内して頂きました。町並みを散策すると、所々にマンボウ形の陶板が目を惹き、番号と町名が表示されています。記された番号は案内マップとリンクしていて、自分が今どこにいるのかも

確認できました。また、町家では障子を利用した昔話「*かんからこぼし」の影絵が上映でき、その昔話に関係するご子孫も登場され、今でもその風習を踏襲されており、昔からの伝統をすごく大切にされていると感じました。

最後は、昭和初期建築の空き家を宿泊型民家に改修された「ゆうがく邸」にて、普段はできないそば打ち体験をし、大変盛り沢山の内容で充実した2日間でした。

*種まき権兵衛…三重県北牟婁郡紀北町海山区に伝わる民話。これをもとにした権兵衛の種まきは中部地方に伝わる民謡。またことわざのひとつに「権兵衛が種まきやカラスがほじくる」～努力が実らないこと、無駄なことの意～もある。

*かんからこぼし…カッパのこと。村の子供を害するカッパを、湊次郎左衛門という武士が懲らしめ手を切り落とす。手を返してくれと懇願したカッパは、今後湊家の子供は決して襲わないと約束する…という昔話がある。登場する湊家の子孫の家が今でも残っている。



平成26年12月4日(木)午後あいにくの雨模様でしたが、気比中学校の1年生60名が2班に分かれて町並み保存資料館の見学にきてくれました。

校外学習の一環で来てくれた男子生徒によると「午前中は若狭町の天徳寺、うり割の滝、午後からは食文化館で若狭塗箸の砥ぎ出し体験、三丁町、そしてここへ来た。疲れた～」と話してくれました。

若狭の語り部さんの引率で1班(30名)が入って来て当館の説明をしました。石室いしむろの案内をするやいなや、「入りたい」「階段が急すぎる」「なんかにおいがする」(湿気の臭いだと思います)などと言って次から次へと15人程が石室に入って行きました。狭いので最初に入った男子生徒に懐中電灯を渡し「ゆっくり出てきてね。頭打たないように気をつけてね。」と声をかけました。出てきた生徒からは、「面白かった」「楽しかった」「真っ暗やった」と感想が聞けました。

引き続き2班(30名)がやってきて、全員石室に入りました。後の方は予備の懐中電灯も渡しましたが、光も弱く、周りの石垣や天井の大きな御影石等は確認できなかったのではないかと思います。帰りには全員でお礼を言って下さり、資料館を出て行かれました。

生徒たちが出たあとの館内は台風一過の静けさのようにいつもの資料館に戻りました。石室の目皿の拭きそうじに入った所、懐中電灯はスイッチを切って置いてありました。石室が楽しく懐中電灯がじゃまになり、手離れたのだと勝手に想像したり、真っ暗闇で学習ができなかったのではないかと思ったり、でも事故もなく生徒たちも喜んでくれてよかったと思いました。



投稿コーナー



町並み月報に地域住民が自由に投稿できるコーナーです。協議会までどしどしお寄せください。(町並み保存資料館ポストへ投函ください。)

歴史講座に参加して

平成26年11月30日(日)に小浜竜田区の本境寺で、寺を創建した組屋六郎左衛門の遠忌法要が行なわれました。法要に併せて『歴史講座～若狭守護武田氏について～』があると聞き、どうして本境寺で若狭守護武田氏のお話がきけるのだろう…と思いながら参加すると、“本境寺創建時は

室町期でしたので、当時の若狭守護職武田氏について、聞いていただこう”とのことで開催されたそうです。

講師は小浜市文化課の西島伸彦氏で、内容は次のようでした。

1440(永享12)年、武田信栄はそれまで若狭守護職だった一色義貴を討ち、若狭守護職となります。初代信栄、2代目信賢、3代目国信、4代目元信と続き、その後受け継いだ5代目元光は1522(大永2)年、他国との戦いや国内治安の為、後瀬山に城を築き、また北側山麓に屋敷を構えて政治拠点の確立を図りました。

6代目信豊、7代目義統、8代目元明が若狭守護職として続けましたが、その頃には盛時の威勢はなく、1568(永禄11)年、朝倉義景に支配されました。こうして初代信栄以来約140年8代に渡って若狭を支配した武田氏の時代は終息を迎えました。

若狭武田氏は文芸活動を活発に行なっていました。組屋家も若狭武田氏の治世には、文芸活動をしていたことがわかっています。その後天下人となる秀吉・家康に協力し、組屋家の繁栄の基盤を固めることに成功します。武田氏は源氏の名門として戦国末期まで活躍しました。

若狭武田氏の館跡は旧小浜小学校跡地と空印寺の境内として現在もなお残っており、小浜市としては「旧小浜小学校跡地を史跡に追加し、史跡後瀬山と共に保存していきたいと考えています。」と付け加えられました。

小浜西組町並み協議会からのお知らせ

町並み保存資料館企画委員会 お正月用の生花教室を行ないます

日 時／平成26年12月27日(土) 午前10時～と午後2時～の2回開催(2時間程度)

費用／盛り花、万年青・・・2,300円前後

講師／澤口妙子先生(常盤未生流) 申込先／澤口先生まで(53-2327)

町並み保存資料館の開館時間と休館日

冬季開館時間…平成26年12月1日～平成27年3月31日 午前10時～午後4時まで

年末年始休館日…平成26年12月28日(日)～平成27年1月5日(日)